

ラオスの職業訓練教育と労働市場との関係

—TVET（技術職業訓練教育機関）とその他の高等教育機関における教師と学生 の経験に焦点を当てて—

原田亜紀子（東京大学） 梅村尚子（東京大学） 新江梨佳（東京大学）
森田怜（東京大学） 小泉喜之介（東京大学）

The Connection Between TVET and Labor Market in Lao PDR
from The Perspective of Teachers' and Students' Experience at TVET and Other Post-Secondary
Education Institutions.

Akiko Harada, Hisako Umemura, Erika Atarashi, Rei Morita, and Yoshinosuke Koizumi,
The University of Tokyo

Author's (Authors) Note

Akiko Harada is a PhD student, Graduate School of Education, The University of Tokyo

Hisako Umemura is a PhD student, Graduate School of Education, The University of Tokyo

Erika Atarashi is an MA student, Graduate School of Education, The University of Tokyo

Rei Morita is an MA student, Graduate School of Education, The University of Tokyo

Yoshinosuke Koizumu is a Bachelor student, The University of Tokyo

This working paper is supported by the Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI), Kiban A, No. 15H02623
(Study of “Knowledge Diplomacy” and Internationalization of Higher Education in Asia Project).

Abstract

The purpose of this study is to examine the relationship between TVET (Technical Vocational Education and Training) after upper secondary education and labor market in Lao PDR, from perspectives of teachers and students experiences at TVET and other post-secondary education institutions.

Problems such as mismatch between the needs of the labor market and the educational training provided at TVET institutions, low quality of teachers, and disparity between metropolitan and rural areas have been pointed out. However, little has been elucidated on how the teachers are trained, how it relates to their teaching practice, how the education is received by the students, and how all of these connect to the students' career. In this research, a qualitative research was conducted on TVET's quality of education and connection with students' career paths from the perspectives of teachers and students.

The study discovered the following three points. First, both students and teachers at TVET perceived that their education and certificate are meeting market needs; graduates of TVET are likely to get jobs in tourism, construction, and culinary easily. Second, TVET teachers recognized the gap between outdated curriculum and the market needs. They eagerly filled this gap by utilizing the Internet, networking with teachers with different experience and disciplines, and collaborating with university faculty, etc. Third, philosophy of educational institutions corresponded with career goals of the students. TVET students valued practice and economy whereas university and college students placed higher values in self-realization and contribution to the society.

Keywords: TVET, labor market, Lao PDR, post-secondary education

ラオスの職業訓練教育と労働市場との関係

TVET（技術職業訓練教育機関）とその他の高等教育機関における教師と学生の経験に焦点を当てて

1 はじめに

本研究の目的は、ラオスにおける後期中等教育以降の職業訓練教育と労働市場の関係を、TVET（技術職業訓練教育機関）とその他の高等教育機関に焦点を当て、教師と学生の経験から検討することである。

2000年代に入り、TVETが改めて注目を集めている。その要因の一つは、途上国が置かれている国際状況の変化であり、経済のグローバル化と情報通信技術の発達が途上国の世界経済への統合をすすめたことがあげられる。そして途上国内でもそれに対応できる知識と技術が求められるようになった（岡田・山田・吉田 2008：1）。こうした知識技術を育成する機関がTVETである。

ラオスは東南アジア地域において最も貧しい国の一つだが、1986年にラオス政府の新経済メカニズム政策（New Economic Mechanism：NEM）が導入され、その後ラオス経済は計画経済から市場経済に移行している。NEMのもとでラオス経済では、工業セクターが発展してきた（小川 2008：115）。

東南アジアの最貧国の一つだったラオスだが、近年の経済成長と、産業構造の転換、すなわち建設、サービス、鉱業、電気、水力、ガス、工業への移行により、労働市場の要請が大きく変化していることが想定される。本研究では、グローバル化と経済発展により求められる労働者とTVETの教育の関係に着目する。

ラオスの労働力の質の低さは、いくつかの文献により指摘されている。首都ビエンチャンの

縫製工場を調査した小川によれば、隣国タイに比べるとラオスの従業員の効率性はタイの従業員の70-80%である。その生産性の低さの背景には、熟練労働者の不足、労働者の欠勤率の高さ、労働者の残存率の低さが挙げられている（小川 2008：121-126）。こうした状況ではグローバル市場でラオス製品が競争力をもつことは困難である。

また、ラオス経済はグローバル市場に呼応しながらも、いまだ国民の8割の農民人口を抱え（World Bank 2014）、地方における生産性の低い経済活動に支配されているため、国内の労働力に求められる資格のレベルは低くなる。さらにTVETの教師教育では教師の教授法の習得や十分な就労経験を保障していない（UNESCO 2013）。

しかしながら、先行研究や国際機関の資料が指摘する問題点には、労働者のニーズや仕事と教育のミスマッチの実態といった、現場からの視点が欠落している。特に労働者のグローバル労働市場へのニーズと国内（特に出身地域）市場へのニーズについては不明である。またTVETの質は教師の質に基づくとされるが、教師の実践がどのように行われ、学生はそれをどのように受け止めているのか、および職業との接続への認識は明らかになっていない。そこで本研究では異なるTVETにおける質的調査により、TVETの教師と学生の双方から、TVETの質や職業との接続、教育の質への意識を明らかにする。

2 先行研究の検討

ラオスの TVET の学習環境や労働市場のニーズとのミスマッチや、それらの課題への取り組みについてはアジア開発銀行の報告がある (ADB2010)。

ラオス政府は、経済成長による MDGs の目標達成と、最貧国からの脱却を目指しているが、経済成長をもたらす鍵となる製造業では、多くの分野で、労働者のスキル不足が課題となっている。TVET はこうしたラオスの問題を解決する有効打として期待がかけられているものの、2つの点において理想を満たせていない。一点目として、ラオスの労働市場が求めるスキルと、TVET が提供するスキルとの間に乖離がある点が挙げられる。TVET では、教師の質が低い、実践的な授業が少ない、最新機器が不足している等の問題点により、建設などスキル需要が特に高い分野の教育機会が不足している。加えて、政府による TVET の運営管理が不十分かつトップダウン式で、市場に適応した教育環境整備の妨げとなっていることも指摘されている。二点目の課題は、学習環境の不備である。多くの地域において TVET は通学に多大な時間と労力を要し、また通学できたとしても施設の整備が不十分のため、特に女子学生や少数民族にとって学びにくい環境となっている。ADB はこれらの課題を踏まえた上で、2011 年から 2021 年にかけて “Strengthening Technical and Vocational Education and Training Project” の実施を提言している (2010 年時点)。これは、市場ニーズの特に高い 4 分野 (建設・機械修理・家具製作・基礎ビジネス) において、TVET の資格を持つ労働者割合を向上させ、より市場ニーズに即した人材育成を行うことを目的とするものである。その内容は主に、

「TVET の質向上」「公平なアクセス環境の改善」「私的機関の TVET への関与増加」「TVET 運営管理とマネジメントの改善」に分けられ、それぞれ様々な施策が提起されている。

スキルと労働市場とのミスマッチには Leuang (2016) の論考もある。ラオスの公立の TVET 機関が供給する熟練労働者と、ラオスの産業が必要とする労働者との間のミスマッチの要因として、Leuang は政府による TVET に対する予算の不足、カリキュラムとニーズが連動していないこと、TVET の発展のための公的部門と民間セクター間の協力関係が弱いことの 3 点をあげている。カリキュラムとニーズの連動については、要求されるセクター、スキルのレベルにおけるミスマッチが示されている。2010 年に ADB が行った労働市場調査では、量的・質的なスキルの不足の課題となっている 5 つの分野として、家具製作、建設、建設のサブセクター、観光とホスピタリティ、機械と整備が挙げられている。一方、TVET からは、ビジネス分野のコースからの修了生が過剰に供給されており、技術関連の分野の修了生は不足している状況にある。また、中小規模の国内市場からなる現状のラオスの産業においては、中等教育段階証書 (Certificate) のような基礎的スキルをもつ労働者が必要とされている状況に対し、TVET の学生は、高等教育段階証書 (Diploma) の高いスキルレベルを望む傾向にあり、求められるレベルの労働者の供給が行われていない。⁽¹⁾

TVET の教育の質について学生側の視点の検証としては、マレーシアの TVET の教育の質への学生の認識度と満足度を調査した Ibrahim らの研究がある。マレーシアの高等教育セクターに位置付けられる TEVT (Technical Education

and Vocation Training) における調査 (Ibrahim et al., 2012) では、公立と私立の機関を比較し、一次顧客 (primary customer) としての学生の満足度は、技術教育機関の存続に重要だとしている。調査結果からは、学生の満足度は、公立の機関で私立の機関よりも高く、指導者の質以外のすべての面において、公立の学生の満足度が有意に高いことが示されている。ただし、労働市場の要望に対応するべく、公立と私立の機関は互いに補完しあっているとされる。また、公立・私立機関ともに、物理的な設備、サービスの信頼度、訓練器材などの訓練以外の面については満足度が低い傾向にあり、一方で指導者やカリキュラム、訓練内容については適度に満足していることが明らかになり、TEVT セクターの課題は主に訓練以外の面にあると結論づけられている。

開発と教育格差に関しては、金子が経済発展と教育の関係について、特に職業教育の実証的研究の意義について論じている。途上国における中等段階での職業教育への投資は必ずしも経済発展に直接的な効果をもたらしていないという研究がある一方で、途上国の政府は職業教育に期待をかけ、教育政策の根幹の一つとして位置づけられている。このギャップの背景には、研究や援助を行う先進国や国際機関における職業教育の理念と途上国のそれが異なる場合があることを認識しなければならない。さらに、社会における経済発展の局面が変化するにつれ、職業教育への需要や果たす役割が変化していくことを踏まえ、政府と市場の関係をいかに構築するか、といった視点を念頭に置き、個々の若者の将来観とキャリア選択を検討した上で経済発展と職業教育の分析を行うことが必要であると、金子は主張する。

吉川は労働力の質と地域の格差に着目する。ラオスの経済発展は、ラオス人民革命党の促進する開放経済により、1986年の市場経済路線の新経済メカニズム政策 (チンタナカーン・マイ) や1997年のASEAN正式加盟を経て、近年高い成長を遂げているが、地方のインフラは未整備であり、地域格差が生じている。通学路の道路事情や教員数、進級する学校への距離などが都市部と農村部の就学・進学率にも影響を及ぼしており、特に北部南部の少数民族居住地域で初等教育の普遍化が遅れていること、初等教育レベルの差が中等教育への進学率にも影響し、最終的に労働力の質における地域格差を生み出していることも指摘する (吉川 2016)。

こうした基礎教育と労働力の質、スキルについて、UNESCOはラオスの労働力の質は基礎教育での退学率の高さにより低くなることを繰り返し指摘している。また、ラオスの企業は隣国からの熟練労働者の移民により、ラオス人を雇用することが困難になっており、従業員への教育訓練の機会を積極的に提供していない。

最後に、TVETの質は教師のコンピテンシーに依存すると考えられているが、Soysouvanhらは、現存するスタンダードから、アウトカムオリエンテッドの個人スタンダードの開発、教師教育のカリキュラム開発の検討を試みた。しかしロールモデルとして比較可能なスタンダードはわずかで、スタンダード実用化の過程に関連する文書や評価は存在せず、そもそもスタンダードは資格化や評価可能に設計されていないと結論づけている。課題として、スタンダードが時代遅れになるのを避けるために、5年ごとの評価や、トップダウンの過程をボトムアップの過程で補完が必要であり、そのためには異なる職業訓練校 (都市と郊外) での質的調査の実施

が求められるとした。

本研究では、Soysouvanh らが提起した質的調査の必要性に着目し、カリキュラムとニーズの連動、教育内容や質、資格と労働市場のつながりを、教師と学生はどのように認識し、現場ではどのような対応がなされているか検討する。

3 研究の方法

本研究は2017年2月28日から3月3日にかけての4日間で行った質的調査に基づく。調査対象は観光都市ルアンパバーン近郊にある4つの大学/TVETである。各校では事前に、その教育機関の担当者（校長など）に対し、学生および教員を必要数の抽出の依頼を行った。対象となった教育機関、および各校の調査対象人数は以下の通りである。

TVET：学生16名、教員7名

ソパノボン大学（国立大学）：学生9名

ラニス（LANITH：Lao National Institute of
Tourism and Hospitality;
接客業特化のTVET）：
学生3名、教員1名

マニバンカレッジ（私立大学）：学生8名、
教員2名

調査方法は半構造化インタビューで、各調査機関の教室にて行った。事前に英語で作成した調査票に、適宜ラオ語の通訳を介しながら本人が記入、その後記入内容をもとにインタビューをする形式をとった。調査対象者が英語を解する際は英語で直接インタビューを行い、そうでない場合は通訳を介して英語とラオ語にて実施した。インタビュー内容は事前に許可を取った上で録音し、調査対象者1名に対して調査者2～3名が質問をする形式で行われた。

質問項目としては、学生向けの調査票では、

氏名や性別などの基礎情報、「なぜ今の教育機関を選んだのか」など対象者の過去に関わる事項、「今の授業をどう思っているか」など対象者の現在に関わる事項、そして「卒業後の進路をどうするか」など対象者の将来に関わる事項の、大きく4種類の項目を質問した。教員向けの調査票では、氏名や性別などの基礎情報、「現在働いている教育機関の強みは何か」など対象者の過去に関わる事項、「どのように学生の将来感を捉えているか」など将来に関わる事項、および「今の役職に就くために必要な資格はあるか」など職務に関わる事項の、大きく4種類の項目を質問した（質問項目の詳細は巻末の調査票を参照）。

分析の視座として、質的調査から、1. 教師の教育内容への認識と実践、職業との接続への認識、2. 学生の教育内容への認識、職業との接続への認識、を設定し、教師のカリキュラムとニーズのマッチングへの取り組みの現状や、学生の職業観、学校選択の理由などを論じる。その際に、TVET、大学における特色や違いを明らかにしながら、インタビュー内容の分析を行う。本研究の構成は以下になる。まず初めに、ラオスの教育制度について概観する。次に、教師、学生のそれぞれの観点から、教育内容や職業との接続への認識、満足度などをインタビュー内容を基に検討する。最後に、各機関における差異も含めて、本研究で明らかになったことを整理する。

4 ラオスの教育制度

ラオスの教育は就学前教育、一般教育、職業教育、高等教育の4段階の学校教育とノンフォーマル教育から成り立つ。一般教育は5年間の初等教育と4年間の前期中等教育、3年間の後期

中等教育に分かれており、前期中等教育までの9年間は義務教育である。TVETは、後期中等教育段階と高等教育段階で提供されており、学習段階に応じて与えられる資格が異なる（津曲，2012，次ページ図1，「ラオスの教育制度参照」）。

ラオスにおいて教育は、貧困削減や経済成長を推進する役割を担っている。1996年の第6回党大会では、2020年までに国家を最貧国から脱却させるという目標が掲げられ、それ以降も「EFA National Plan for Action 2003-2015」や「Education Sector Development Framework 2009-2015」など中長期的な教育開発戦略を発表している。

ラオスでもEFAの潮流の中で基礎教育分野への援助が増加しており、初等教育段階の純就学率は2000年の78.6%から2010年の92.7%へ、前期中等教育段階では1990年の30%から2010年の63%へ増加している（UNESCO, 2013）。こうした基礎教育段階の拡大はポスト基礎教育段階へのニーズを高めることとなり、経済発展に必要な人材を養成する役割を求められている。

ラオスにおいて高等教育が整備されるのは1990年代後半になってからのことである。ラオス初の国立大学であるラオス国立大学(NUOL)が既存の高等教育機関を統合して1996年に設立され、2002年にチャンパーサック大学、2003年にソパノボン大学(SU)、2009年にサワンナケート大学が設立された。国立大学が新設されたが、依然として進学の手続きは限られている。

私立大学の数は2000年以降に増加している。2001年には私立大学の数はわずか4校であったが、2008年には全国で72校に上っている（瀧田・乾 2008）。私立学校の特色として、実践的な

専門的プログラムが提供されていることが指摘されており、国立大学が提供できない産業構造や市場経済に見合ったカリキュラムが提供されている。

TVETには、前期中等教育修了者を対象とした中等教育段階証書を授与するものと、後期中等と後期中等教育修了者を対象とした高等教育段階証書を授与するものがある。TVETへの進学者は増加しており、2009年度には53,800人に上っている。一方で後期中等教育段階に相当する、中等教育段階証書が付与されるコースの進学者は減少している。2008年度の教育省が提供するTVETでは59%の学生が高度高等教育段階証書のコースを、40%が高等教育段階証書のコースを、1%が中等教育段階証書のコースを選択していた。（UNESCO 2013）。

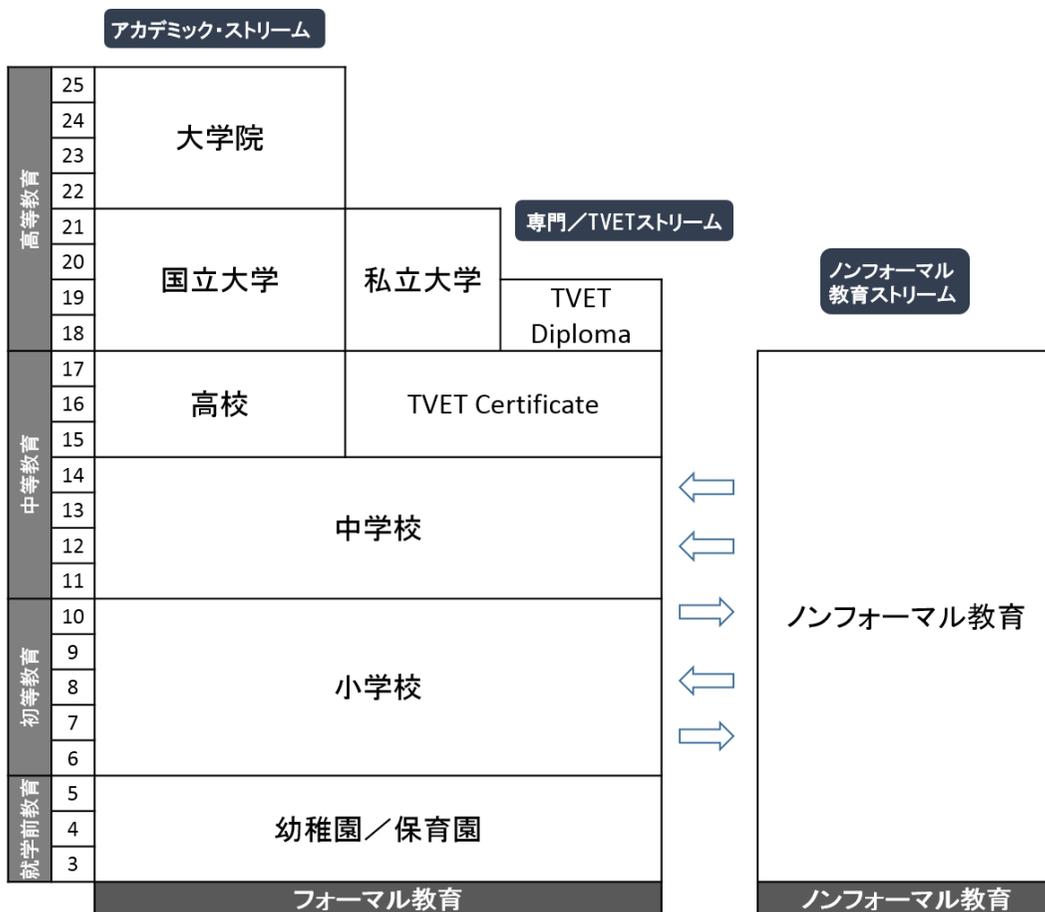


図1 ラオスの教育制度（ラオス教育省の資料およびUNESCO（2013）を基に執筆者作成）

5 分析

5.1 教師の認識：カリキュラム、職業との接続

5.1.1 カリキュラム

TVET のカリキュラムは、ラオスの教育スポーツ省が作成した職業訓練教師のスタンダードを基盤として構成される。Soysouvanh らは、スタンダード実用化の過程は不明で評価が存在せず、スタンダードが時代遅れになる可能性を指摘する。

現場ではすでにカリキュラムが時代にキャッチアップしていないことが認識されている。学

生達は現行カリキュラム以上のものを TVET に求めており、教員は、学生のニーズに応えるため、新しい情報をインターネットから得てカリキュラムを実用化している。

学生と社会のニーズを知り、それに合わせて常にカリキュラムの改善を行うことで、学生達は授業内容に満足していると教師は感じている。また、海外経験のある教師は、その経験や知識を他の教師と相談し教育内容を検討する。学生の多くが政府や企業に就職することに教師は満足しており、それを実現するのはネット上の情報と教師の経験知、そして同僚だと感じており、

これらを活かし現場に合った学びに変更している。

設備に関しては、機械コースはインタビュー校においてはよい設備を備えているとのことだったが、他の TVET では、学習に十分な設備が整っていないという。

5.1.2 労働市場とのマッチング

TVET のカリキュラムやプログラムは時代遅れであることについては、アジア開発銀行 (ADB) も言及している。ADB によれば、TVET には実践的なトレーニングはほとんどなく、多くの TVET 機関には近代的な設備が欠けており、TVET セクターで提供されている研修の多くは、労働市場のニーズには関係しないという (ADB 2010: 5)。

インタビューによれば、学生の就職先については、観光とマネジメントの学生はホテルに就職し、就職率は 99% であり、他に料理コースも TVET で技術を身につければ就職可能である。建設分野に関しても専門性を身に着けることができ、就職に問題はないと捉えられている。一方でファイナンスやインターナショナルコミュニケーションを学ぶ学生は、就職口がなく就職できない。ファイナンスとインターナショナルコミュニケーションは TVET では十分な技術を身につけることができない、あるいは労働市場の要請に見合わない、といった要因が考えうる。TVET 修了者は、分野によっては就職率が高いことから、アセアン市場のみならず国内市場のニーズともミスマッチであるという先行研究の指摘については、検討の余地がある。

5.1.3 他の TVET や大学との連携

TVET の教師の質の低さについては、就労経

験がないこと、キャリア開発の機会がないこと、永続勤務で流動性がないことなどがその理由として挙げられる (UNESCO 2013)。インタビューでは、TVET の教師 7 名のうち、就労経験があるのは空港勤務の経験がある男性が 1 人、二か所の TVET での就労を経験していたのが 3 名であった。空港勤務の経験がある教師は、タイや中国でも訓練を積み、複数校での勤務体験があった。さらに二名は TTC で学んでいた。また私立大学には、国立大学でも授業を担当している教師がおり、以上から、雇用の流動性は TVET 間、大学間で見られ、海外でのキャリア開発の機会も場合によってあることが伺える。

教授法についても、教師教育では十分な教授法が身につけていないとされてきた。現場ではそれを補う活動が展開する。観光・マネジメントでは教授法の交流を行っており、またビジネスアドミニストレーションでは、他の高等教育から支援を受けながらカリキュラム開発を行っている。協働のイニシアチブをとりプログラムを作るのは大学であり、実践者は TVET となっている。こうした異なる機関の連携は公式にプログラム化されていないが、自発的に行われている。

5.1.4 TVET と国立大卒者の就職

インタビューによれば、TVET で獲得する技術は実務能力であり、技術的な専門性である。TVET 卒業者は家族経営の自営業者になるケースが多く、起業する場合もあるという。一方で建設分野では学生の多くが政府や企業に就職している。同じ建設分野でも TVET は建設の実務能力、国立大学は設計や計算などの能力で雇用される。TVET と国立大学を比較すると、TVET は直接学んだことを仕事に生かす一方で、大学

は高度化された内容を学ぶという特性が浮かび上がる。学ぶ内容が理論的である、という指摘は大学には当てはまっても、TVET には当てはまらない。大卒者は主として政府や企業といった組織で働くが、TVET 卒業者は自営業も組織もどちらも就職しているということになる。

5.1.5 私立大学の位置づけ

私立大学の特色は、国立大学が提供できないような専門化したプログラムを提供していることとされている。専攻は会計、流通、経営、英語、コンピューターなどが主流であり、国立大学が提供できないような実践的なプログラムや、産業構造、市場経済に見合ったカリキュラムを提供しているという（瀧田・乾 2008）。インタビューでは、TVET 卒の進路は単線的だが、私立大学卒は複線的で進路の幅が広いとのことだった。教師は学士の資格を求められ、TVET より高度化された専門性を必要とする。国立大学と兼任で教える教師もいることから、私立大学は理論的な学習と実務的な学習の双方を学べる場として位置づけることも考えられる。

乾らは、近年の東南アジアの高等教育を概観すると、民営化なしでは成立しないという。それは既存の機関では市場のニーズの変化に的確に対応できないためである。民営部門では、既存の機関より即座に動くことができ、高等教育の供給の際に効率的にギャップを埋められる（瀧田・乾 2008）。しかし私立大学校長へのインタビューによれば、近年学生は減少傾向にあり、それは他の私立大学でも見られるという。その背景として、私立大学で取得できる資格はディプロマであり、学士を取得できないためではないか、というのが校長の見解である。

以上、教師へのインタビュー内容により浮か

び上がってきたのは、カリキュラムや設備の不備を補うために、同僚や他機関と協力し教授法や教育内容を実用的なものに自ら転換してこうとする教師の前向きな努力だった。しかし就職が決まった卒業生たちの技術が実際に職場に見合った技術なのかは、今後検討が必要である。

5.2 学生の職業観：目的・進路への希望

5.2.1 仕事の目的

学生にとって働く目的が何かを検討するため、「生活資金を稼ぐため」「社会に貢献するため」「自己実現のため」「生活の質を向上させるため」「視野を広げるため」の5つの目的を、優先順位の高い順に並び替える質問を行った（次ページ図2、「学生の考える仕事の目的」参照）。

1位に選択された項目に着目すると、全体としては「生活資金を稼ぐため」が最も多く選ばれ、「生活の質を向上させるため」がそれに続いた。若者の職業観として、仕事とは経済力や生活力の向上のためのものであり、高等教育はより良い職業につくための場所として期待されていると推察される。

一方で、各教育機関において目的に差が見られる部分もあった。TVET の学生は「生活資金を稼ぐため」を特に多く選択し、それ以外の目的との間には優先順位に大きな隔たりが生じていた。反面、国立大学の学生は、「自己実現のため」や「社会に貢献するため」も同様に重要視しており、自らの経済的な地位向上を超えた社会的な価値意識が強いと言えよう。また私立大学では「視野を広げるため」や「自己実現のため」が「生活資金を稼ぐため」よりも多く選択されており、TVET の学生との目的意識のギャップがより明確となっている。

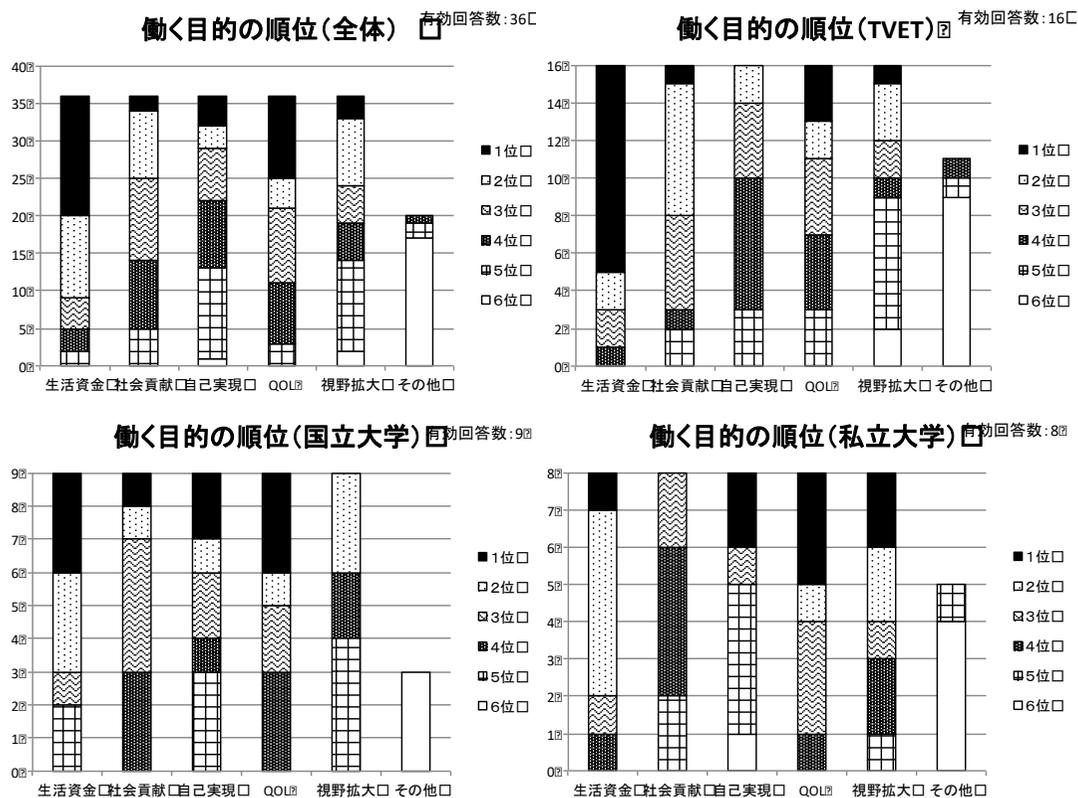


図 214 学生の考える仕事の目的 (インタビューを基に執筆者作成)

5.2.2 卒業後の進路希望とその理由

学生を対象に卒業後の進路希望を尋ねたインタビューでは、教育機関を問わず学習分野と希望進路の間に密接な関連が見られた。例えば、電気工学を専攻する TVET の学生はエンジニアや修理工を目指す者が多く、建築学を学ぶ国立大学の学生はデザイナーや建築家を目指すものが多い。

しかしながら、その進路を希望する理由に関しては、教育機関ごとに差が存在する。国立大学の学生は「小さい頃からの夢だった」「きれいな建物が好きだから」など内発的な動機を挙げているのに対し、TVET の学生は「給料が良

いから」などの経済的な理由を多く挙げていた。これらは先に述べた「仕事をする目的」と対応しており、学生が自らの職業観に基づいた合理的な進路選択を行なっていることが見て取れる。

また職種のみならず、労働環境の希望に関しても教育機関ごとに違いが見られた。国立大学では「中国のダム会社に入りたい」「ピエンチャンで働きたい」など、生まれ故郷を離れて職を求める学生が比較的多く存在する。一方、TVET の学生は働く場所に関する希望をほとんど述べていない。教師を対象に学生の職業観を尋ねたインタビューでは「学生は故郷で働きた

がっている」とする回答もあり、TVET の学生は生まれ故郷での就職を当然のこととみなしているとも推察される。

5.2.3 教員から見た学生の進路選択と就職

教師を対象に、学生の卒業後の進路を尋ねたインタビューでは、TVET 教員と私立大学教員の認識の違いが浮き彫りとなった。TVET の教員は、TVET の卒業生が「より実践的な技術職」、大学の卒業生が「アカデミックなマネージャー層」に就きやすいと認識しており、職種ごとの住み分けを行っていると認識している。その一方で私立大学の教員は、TVET の卒業生を「単線的で専門に特化した存在」、大学の卒業生を「より多様な選択肢を持つ存在」と見なしており、両者の間に価値の差を見出しているように推察される。こうした認識はカリキュラムに関するインタビューにも表れており、私立大学の教員は TVET のカリキュラムを「私立大学のカリキュラムの一部に止まる」との旨を述べており、TVET のカリキュラムに独自の価値を認めていないように考えられる。

以上により、将来の職業に関しては TVET の学生は経済的な側面、国立大学の学生は自己実現や社会貢献の側面を重視しており、その職業観が専攻選択、ひいては進路希望へと影響していると推察される。各々の背景や理由に違いはあれど、具体的な根拠に基づく論理的な将来設計がなされていると言えよう。また、就職をめぐる教員の認識には教育機関ごとに差が見られる。こうした認識の差が教員の勤め先選択や授業内容にどのような影響を及ぼしているのかに関しては、さらなる調査が必要である。

5.3 学生の教育内容への認識：専攻と満足度

5.3.1 各教育機関における教育内容と学生の学校選択の関係性

国立大学、私立大学、TVET 機関の各教育機関が、それぞれ職業訓練に関するプログラムや専攻を設けている。設置されている専攻分野は、各教育機関の間で重複が見られる。例えば、ADB が示す市場ニーズの高い分野に含まれる「建設・建築」や、調査地であるルアンパバーンにおける地域性を反映した「観光」等の分野は、国立大学および TVET のいずれでも専攻が設けられている。また、昨今多くの学生が輩出されているとされるビジネス分野 (Leuang 2016) の専攻は、私立大学および TVET で共に設けられている。

このように、教育機関をまたいで分野の重複が見られる一方で、各教育機関で学生が学ぶ具体的な内容には、異なる方向性が見られた (表 1、「各教育機関の教育内容と学生の認識」参照) インタビューより、学生が現在所属しているコースで学んでいる内容としてあげた要素を分類すると、国立大学では、一般教養、専門分野の理論、専門分野の技術を横断的に学んでおり、他の機関に比べて理論の側面が強い。対して、TVET では、一般教養や専門分野の理論的側面は大学と比較すると少なく、実務に用いる専門技術に重点が置かれ、実践的なスキル訓練が低い年次から多く扱われている。また、取得できる学位も異なる。

同じ産業分野に向けた人材の育成や供給を行いつつ、育成される人材が有するスキルに関しては、各教育機関、とくに国立大学と TVET および私立大学との間で違いがあり、各機関は学生に対して異なる機会を提供していることが考えられる。

学生を対象に学校選定理由を尋ねたインタビューからは、学生が在籍する教育機関ごとに異なる傾向が確認された。国立大学では「建築やデザインが好きだから」など、その分野や学習内容への興味を選定理由として述べる学生が多くみられ、TVET では「企業のオフィスが増え、コンピューターを扱える人材のニーズが高まっている。コンピューターを学べば地元で働いていくことができるから」など、仕事への直接的なつながりを述べる学生が多くみられた。また、「TVET での勉強は3割が理論、7割が実践だと聞き、国立大学に比べて実践的な学びを多く得られると思ったから」と、学校の教育内容の傾向の違いを直接的に選択理由として述べる学生もいた。このことから、各教育機関における教育内容の異なる特性は入学してくる学生にも理解されており、学生は家庭事情や経済面など他の理由と合わせ、個人のニーズに応じて学校を選択している可能性が推測される。

5.3.2 学生の満足度

学生に、現在学んでいるプログラムの印象を尋ねたインタビューの回答では、各教育機関で概して肯定的な意見が聞かれた。「学んでいることや経験に満足している」「期待通りのことを学べている」など、学習内容についての満足感や、「仕事に就く上で役に立つ」など、就職やキャリアに対する有効感を感じていると述べる学生は、すべての教育機関に置いて多数を占めた。先に示した学校の選定理由も合わせ、学生の学習に対するニーズや想定と、各教育機関が提供する教育内容のマッチングは概ね良好であるといえる。

一方で、国立大学と私立大学において、一部の学生からは、不満に感じている部分も挙げら

れた。不十分なものとして、国立大学の学生からは、学校の設備や、教員による指導の質、学習できる内容の不十分さが挙げられ、私立大学の学生からは、教員の不在が挙げられた。しかしながら、今回の調査においては、各教育機関が提供する教育に対する学生の満足度は一般的に高い傾向にあることが明らかになった。

5.3.3 卒業後のビジョン

学生に将来の夢を尋ねたインタビューからは、学んだことを活かした職業に就きたいという考えが各教育機関で共通に聞かれたが、学生が想定している就職先の具体性と就職先や仕事の規模において、教育機関によって異なる傾向が見られた。大学の学生は具体的な企業名をあげるなど、比較的具体的な就職先を想定している場合が見られるのに対し、TVET や特に私立大学では具体性が薄い回答が多く見られた。また、大学の学生には、中国系のダムの建設会社など、ADB が市場ニーズとして挙げているような、比較的規模が大きくラオス経済に影響を与えることが考えられる層での就労を希望する学生も見られるが、TVET や私立大学では、地元での就職や中小規模の就職先を想定している回答が多く見受けられた。

以上、学習内容や職業観に関する学生のインタビューからは、学生自身のニーズと各教育機関が提供する教育内容との対応において、大きなミスマッチは起こっていないように捉えられる。それぞれの教育機関の学生が求めたり想定したりしている学習内容および卒業後に描いているキャリアと、実際に各教育機関で提供されている教育には対応が見られた。

先行研究で示される労働市場と職業教育のミスマッチに関しては、国家のレベルでラオス経

済の発展を見据えて検討されている労働市場のニーズとの対応で語られているといえる。一方で、個人の学生のレベルでは、比較的小規模な地域社会の中での就職におけるニーズがある。

教育機関別では、大学が前者のニーズへの対応を図る方向性にあり、TVET や私立大学は後者のニーズとの対応において現状で意味を持っていると考えられる。

表 1. 各教育機関の教育内容と学生の認識(インタビューを基に執筆者作成)

	国立大学	私立大学	TVET
教育内容の特徴	横断的・理論重視 一般教養 専門分野の理論 専門分野の技術	社会的なスキル重視 一般教養 専門技術 (ビジネススキル等)	技術的なスキル重視 一般教養 専門技術 (特定の分野の技能等)
学生の学校選択理由	学問分野への興味関心	社会的なスキルの習得に対する期待	専門技術のスキルの習得に対する期待
教育内容への満足度	満足・肯定的(7名) 不満あり(2名) 設備・教授の質の不十分さ	満足・肯定的(5名) 不満あり(1名) 教員の不在	満足・肯定的(14名)

6 結論

本研究では以下の3点が明らかになった。第一に、TVETでの資格は分野により労働市場と連動し、就職時には十分なスキルが得られていると教師も学生も捉えていることである。ラオスの国内市場は中等教育段階証書レベルの基礎的スキルをもつ労働者が必要とされている状況に対し、TVETの学生は、高等教育段階証書や高度高等教育段階証書を望む傾向にあり、労働市場の重要と供給にギャップがあるとされていたが(ADB 2010)、本研究のインタビュー対象となった高等教育段階証書や高度高等教育段階証書を取得するTVETではファイナンスやインターナショナルコミュニケーションでの就職難があったものの、観光、建設、料理といった分野では極めて就職率が高かった。

第二に、TVETと私立大学、国立大学では教育機関を超えて分野の重複がみられるが、各教育機関で学生が学ぶ具体的な内容には異なる方向性が見られ、また学生の学校選択や進路選択

にも異なる傾向が見出された。実践的な内容を中心として学ぶTVETでは学生は経済的な側面を重視する一方、理論的な内容を中心とする国立大学や、国立大学とTVETの中間に位置するとも考えられる私立大学の学生は、自己実現や社会貢献の側面を重視し、その職業観が専攻選択と進路希望へつながっている。また、地元への就職を希望するTVET学生と私立大学の学生、首都や海外での就職を希望する国立大学の学生、といった違いも見られ、学生達はそれぞれの具体的な根拠に基づく論理的な将来設計がなされていること、その上で教育内容に大半の学生が満足していることが明らかになった。

第三に、問題視されてきた教師の質については、大学の教師は学士や修士を取得していたがTVETの教師の大半は高等教育段階証書にとどまり、就労経験がある教師は限定的だった。しかし教師はカリキュラムと学生や労働市場のニーズの不一致を認識し、インターネットによる情報のアップデート、海外での就労経験がある

教師との情報交換,異なる専攻間での教授法の交流,大学教師とのカリキュラム開発,といった方法で,ギャップを埋める努力をしていた。教師の同僚との協力,カリキュラムのアップデート,教授法の改良といった自発的な取り組みがなされ,その結果が学生の教育内容への満足度につながったと考えられる。

本研究では,階層や少数民族地域に関する課題,例えば通学路の事情や学校への距離,初等教育のレベルと労働力の質については言及することができなかった。また労働市場とニーズのミスマッチについては量的な調査が必要であるため,今後の課題としたい。

注(1)

中等教育段階の修了書は Certificate,高等教育段階の修了書は diploma, higher diploma となる。higher diploma の上は学士になるが,学士は私立大学では取得できず,国立大学でのみ取得できる。本研究では Certificate は「中等教育段階証書」,diploma は「高等教育段階証書」とした。

引用文献

岡田亜弥・山田肖子・吉田和浩 (2008)「発展途上国の産業スキルディベロプメント」岡田亜弥・山田肖子・吉田和浩編『産業スキルディベロプメント - グローバル化と途上国の人材育成』日本評論社, pp.1-15

小川啓一「縫製産業に見る産業スキルディベロップメント」(2008)岡田亜弥・山田肖子・吉田和浩編『産業スキルディベロプメント - グローバル化と途上国の人材育成』日本評論社,2008,pp.115-127

金子元久. (2001). 発展 と職業教育 一 問題点

の整理 一. 米村明夫 「教育開発: 政策と現実」アジア経済研究所.

瀧田修一・乾美紀 (2008)「ラオスにおける高等教育の改革の現状と課題: 教育機会拡大の動向を中心に」『大學教育研究』17.1-3 頁

津曲真樹(2012)『ラオス教育セクター概説』IMG: Development Consultants
<http://jp.imgpartners.com/image/A5E9A5AAA5B9B6B5B0E9A5BBA5AFA5BFA1BCB3B5C0E22>

012_Final.pdf (2015/3/9)

吉川健治. (2011). 開発と教育格差--開発格差の行方, ラオスを事例として. 現代史研究, 7, 101-127 頁

吉川健治(2016)「ラオスが直面する「経済成長」のジレンマ」 山田満編『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」—武力紛争, 難民, 災害, 社会的排除への対応と解決に向けて』223-241 頁.

ADB (2010) Report and Recommendation of the President to the Board of Directors; Proposed Grant Lao People's Democratic Republic: Strengthening Technical and Vocational Education and Training Project.

Ibrahim, M. Z., Ab Rahman, M. N., & Yasin, R. M. (2012). Assessing students perceptions of service quality in technical educational and vocational training (TEVT) institution in Malaysia. Procedia-Social and Behavioral Sciences, 56, pp.272-283.

Leuang, V. (2016) Technical and Vocational Education and Training (TVET) and the National Economic Development of Lao PDR.

Sondergaard, Lars M. (2014) Lao development
report. World Bank
United Nations Educational, Scientific and
Cultural Organization (UNESCO). (2013). Policy
review of TVET in Lao PDR